

# 自主防災組織 ①

大規模災害が発生したとき、『公助』となる市町村の救援活動は限界を超えてしまうかもしれません。まずは『自助』として自分自身の命と身を守る行動が一番大切ですが、地域で相互に助け合う『共助』も非常に重要な課題となっています。

その『共助』で重要な役割を担うのが地域に根ざした自主防災組織です。地域のことを熟知している組織だからこそできる活動があり、その役割には大きな期待が寄せられています。



## 自主防災活動とは

### 1. 地域の実情にあった自主防災組織

自主防災組織は地域の住民が自主的に防災活動を行う組織です。日常の活動としては、防災知識の普及や啓発、防災訓練、安全点検、防災用品の備蓄や点検といった活動に取り組みます。

また、災害が発生した際には、初期消火、住民の避難誘導、負傷者の救出や救護、情報の収集や伝達、給食や給水活動などを展開します。

地域の特性をよく理解している組織だからこそ、地域の実情に合った救助活動を行う事ができます。

### 2. 災害時は共助こそ大切

特に大規模な災害が起こったときは、電話や電気、ガス、水道などのライフラインが寸断されたり交通網の乱れにより公的機関の救急隊がすぐに駆けつけられない事態が想定されます。そのようなときこそ、隣近所の身近な住民で結成する自主防災組織が力を発揮します。地域住民が共に助け合うことで被害を最小限にする事ができるのです。

次回も引き続き自主防災組織についてお話ししたいと思います。



～ 災害時 その判断が 分かれ道 ～



## こんにちは 八百津町地域包括支援センターです ～平成27年4月から介護保険制度が変わります～

団塊の世代が75歳以上となる2025年（平成37年）を見据え、平成27年4月に介護保険制度が大きく改正されます。大きなポイントは次の2つです。

- ①介護が必要になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される**地域包括ケアシステム**を構築する。
- ②費用負担の公平化。

地域の中で高齢者の社会参加を目指していく事は社会保障費の節約となるだけでなく、高齢者自身の生活の質の向上につながります。高齢者を支えるうえで「地域力」が必要とされているのです。

近所の方への挨拶、登下校の見守り、地域行事の参加等、身近にできることから始めてみませんか。

### 〈4月 こころの相談の予定〉

- ・13日（月）午後から高齢者のための「こころの相談」（事前に予約が必要です）のぞみの丘ホスピタルの精神保健福祉士が個別に対応し秘密は厳守します。



□お問い合わせ 八百津町地域包括支援センター ☎ 43-3267 または ☎ 43-2111（内線 2566・2567）